

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・後期・B群
	対象学科・専攻	土木工学科
意匠設計 (Design and Drawing for Landscape architecture)	担当教員	前野 祐二 (Maeno, Yuji) 星野 祐司 (Hoshino, Yuji)
	教員室	専攻科棟1階 (Tel. 42-9118) 土木工学科棟2階 非常勤講師控室 (Tel. 42-9125)
	E-Mail	maeno@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・実習 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 15回	
〔本科目の目標〕 土木工学における景観デザインの位置づけ・必要性を学び、土木構造物や土木空間の利用者である市民が、どの様に体験し、味わうのか、普遍的な枠組みについて理解を深める。さらに、風景の中で設計者が操作可能なものを把握し、模型製作などを通じて、デザインの実践的な演習を行うこと目標とする		
〔本科目の位置付け〕 本科目では、いままで学んできた土木工学の各分野を、景観デザインという新しい視点から統合し、実践する。そのため、土木工学全般への深い理解が必要であり、さらに、デザインに関連する隣接分野（建築やインテリア、グラフィックなど）へも関心を寄せておく必要がある。本科目はPBL形式の学習法で進めていく。		
〔学習上の留意点〕 教科書や講義の内容を為呑みにせず、必ず自分の目と足で実体験を通じて確認すること。デザイン教育は、教室で完結するものではないので、普段の生活から意識的・批判的に景観や構造物を眺め、自分なりのアイデアを練っておくこと		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 景観工学の基礎	1 1 1 1 1	橋景観デザインの位置づけ、景観とは何か？ 景観把握モデル、視点と視点場が説明できる 人間の視知覚特性が説明できる 空間のスケール・ヒューマンスケールが説明できる プロポーションとコンポジションが説明できる
2. 景観のイメージ	1 1 1	ゲシュタルト心理学（図と地）が説明できる 都市のイメージが説明できる Prospect-Refuge理論、親水象徴理論が説明できる
3. デザイン事例	2 2	デザインプロセスが説明できる 河川デザインの事例が説明できる
4. 設計演習	2 2 10 4	現地調査の方法が説明できる コンセプトの立案が説明できる 設計の進め方、模型の作り方が説明できる プレゼンテーション、評価  授業項目 1～10について達成度を確認する
〔教科書〕 観用語事典 篠原修柘・景観デザイン研究会著 彰国社 〔参考書・補助教材〕 設計演習資料（プリント、図面等）		
〔成績評価の基準〕 演習課題の成績 (100%) - 授業態度 (最大20%)		
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 1-b, 3-d 〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-3 〔JABEEとの関連〕 (d)(2)c		